

## 8 . 河道特性

### 8 . 1 河道特性

黒部川は、3,000m 級の北アルプスの山々から一気に流れ下り、日本海へと注いでいる。その河床勾配は山地部で  $1/5 \sim 1/80$ 、下流の扇状地部で  $1/100$  という急勾配を呈しており、国内屈指の急流河川である。

以下、黒部川の河道特性について上流域（峡谷部）、中流域（山間部）、下流域（扇状地部）に分けて説明する。さらに、河口から海底にかけての地形についても説明を加える。

黒部川直轄管理区間（宇奈月ダム管理区間は除く）の現況河道縦断図を図 8-2 に示す。

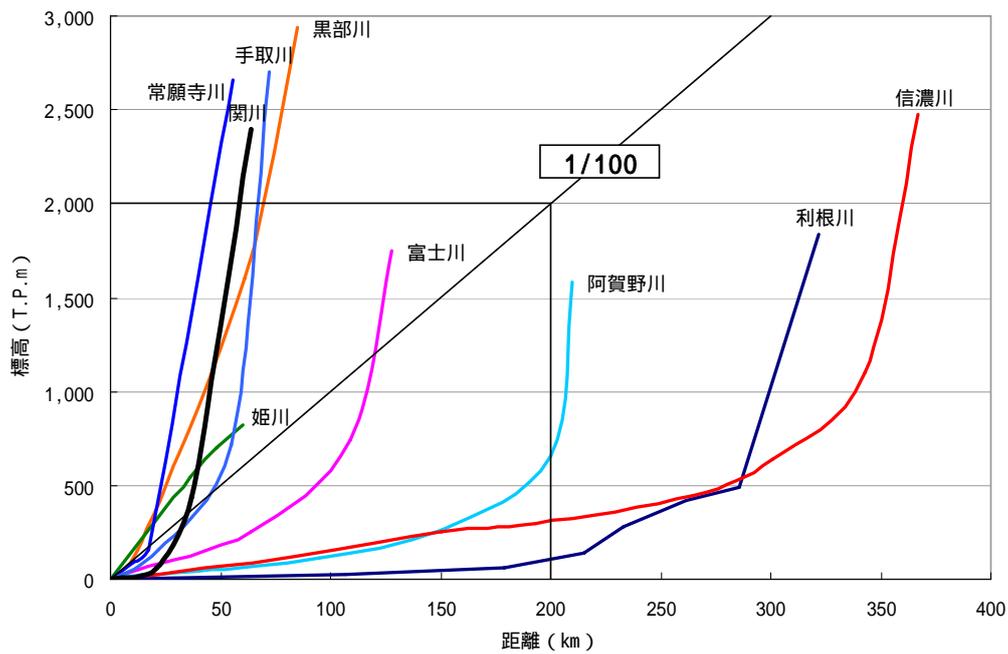


図 8-1 他河川との比較

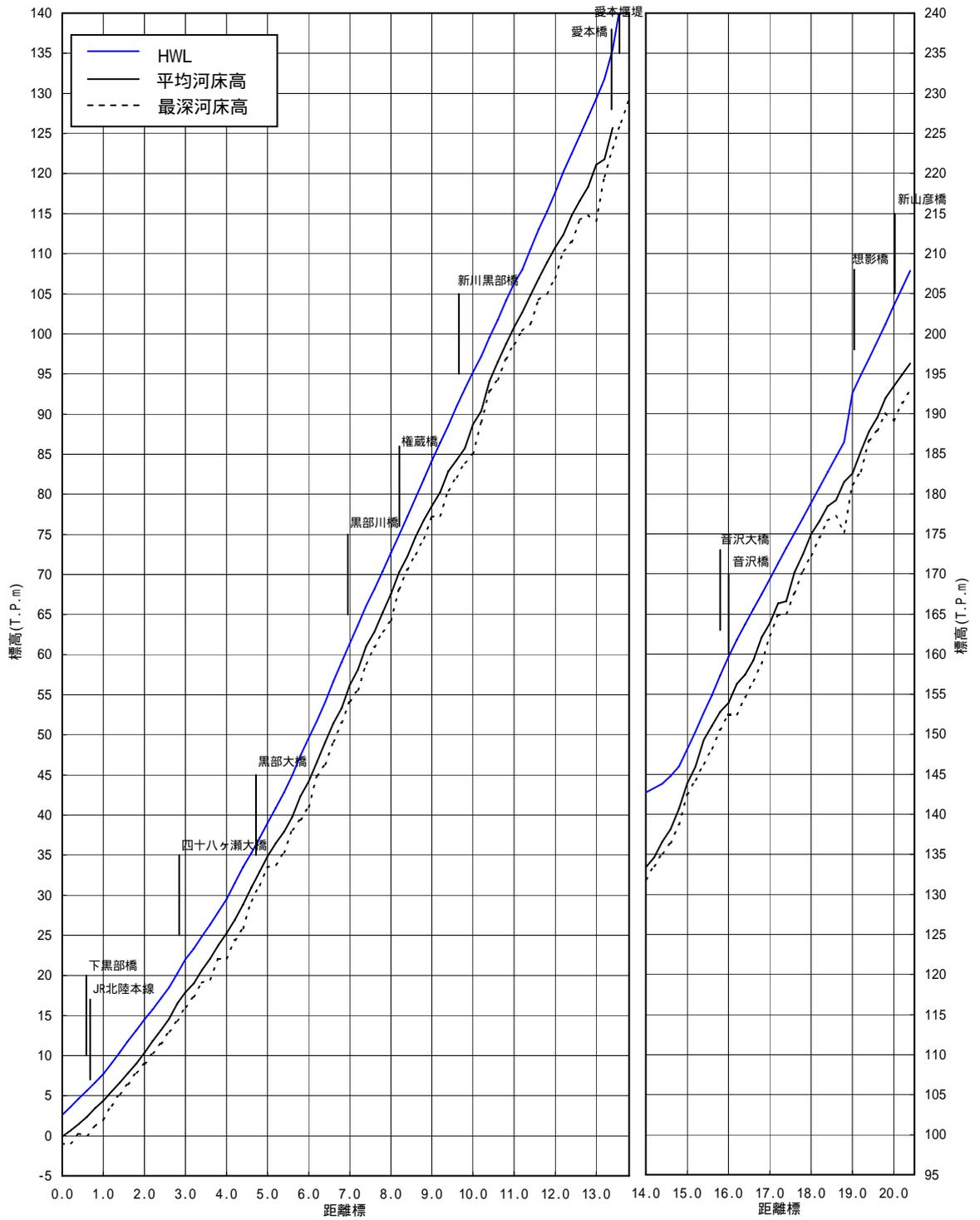


図 8-2 黒部川現況(H15)河道縦断図 (直轄管理区間、ダム管理区間除く)

## 8.2 上流域（峡谷部）の河道特性（源流～黒薙川合流点）

源流から黒薙川合流点にかけては、黒部湖をはさんで上流側を<sup>かみのろうか</sup>上廊下、下流側を<sup>しものろうか</sup>下廊下と呼び、それぞれの渓谷地形を成している。

上廊下は一般に薬師沢の出合までを指し、両岸から岩壁がせまり、岩場の谷が連なっている。沢との出合では深い淵等を形成している。上流に行くにつれ渓谷は浅くなり、渓谷源流に近づくにつれ源流帯の細い沢筋が葉脈のように黒部川に向かってのびてくる。最上流部付近の河床勾配は約 1/5 と極めて急峻で、河床材料は巨石や岩、砂礫となっている。



黒部湖より上流の河道



源流部（鷲羽岳）

【出典：黒部河川事務所】

下廊下は上廊下よりさらに切り立つような崖となり、流水の激しい侵食により典型的なV字状の谷形を示し、上流から白竜峡、十字峡、S字峡、猿飛峡といった渓谷景勝地を形成している。河床勾配は約 1/25～1/40 と急峻で、河床は巨石や岩の他、砂礫等よりなる。

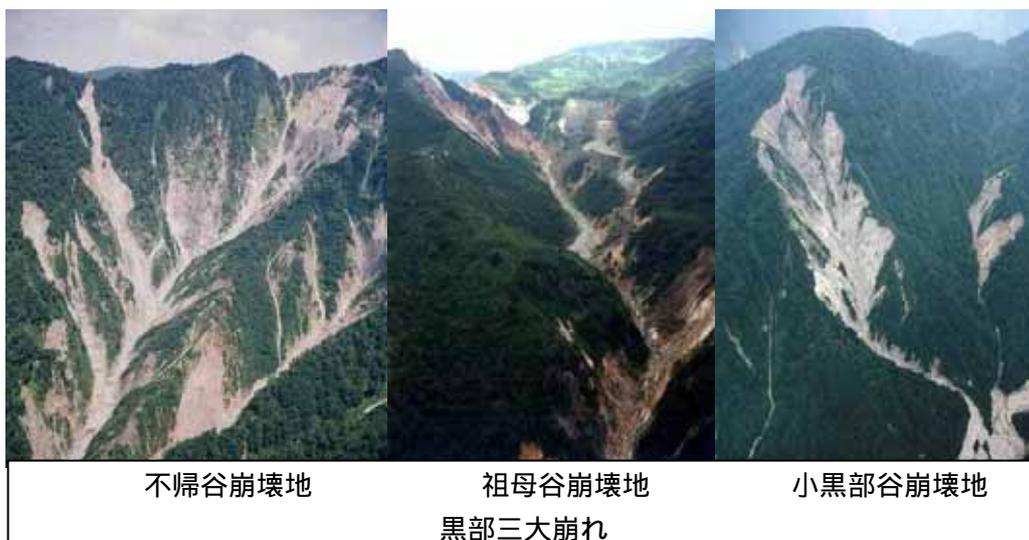


黒部湖より下流の河道

【出典：黒部河川事務所】

廊下：両岸の岸壁がほぼ垂直にそびえる地形が、両側に戸障子を立てた廊下を思わせることから、釣り人や猟師が名付けたといわれている。

また、黒部川流域は山地崩壊面積比率が5%と高く、黒部川に流れ込む支川や沢から絶えず岩や砂礫などが供給され、河床材料を構成している。



【出典：黒部河川事務所】

### 8.3 中流域（山間部）の河道特性（黒薙川合流点～愛本堰堤）

黒薙川合流点から下流の愛本堰堤（富山県）付近の区間は、岩壁を擁す渓谷を抜け、宇奈月ダムより下流では川谷は開け山間地形を成し、左岸あるいは右岸には段丘が連続して発達している。流路はほぼ単列であるが、川幅が広がる区間では複列化している。河床勾配は約1/100であり、河床材料は大礫から砂礫よりなっている。



【出典：黒部河川事務所】

### 8.4 下流域（扇状地部）の河道特性（愛本堰堤～河口部）

黒部川は、愛本堰堤を扇頂部とする黒部川扇状地のほぼ中央を北に向かって流れ下る。扇頂部から約7kmの区間は複断面化しており、流路は単列を成し、近年滲筋はほぼ固定化している。それより下流から河口に至る区間では、上記区間に比べ高水敷幅は狭く、流路は網状に広がり滲筋の変動が激しい。河床勾配は概ね1/100程度であるが、河口部で約1/200と若干緩勾配となる。河床材料は当該区間においても1m以上の大石が見られ、玉石状の

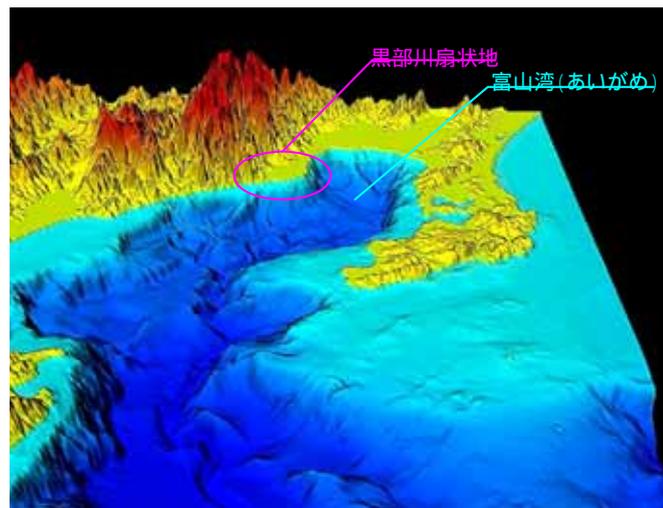
石の隙間を埋めるように小石、砂礫が内在する。河口付近でも平均 4cm ~ 7cm の粒径である。



【出典：黒部河川事務所】

### 8.5 海域（富山湾）

黒部川扇状地は、海に直接土砂が堆積してできた臨海性扇状地のため、富山湾に至っても海底地形は急峻で深く、古くから藍甕<sup>あいがめ</sup>と呼ばれている。



【出典：産業技術総合研究所 HP】